

イノベーション創出
に資する施設整備

学生の修学支援
に資する施設整備

グローバル化に
対応した施設整備

その他

にぎわいあるスペースと静かなスペース



建物 外観写真

基本情報

大学名：名古屋大学
建物名：中央図書館
工期：平成25年9月～平成26年5月
構造・階数：RC 地上5階地下1階
延床面積：15,597㎡
事業費（設計費含む）：1,840,891千円



研究個室

整備の方向性

○アクティブラーニング環境の強化

- ・ディスカッション等を行う「にぎわいのあるスペース」と学習等に集中できる「静かなスペース」をフロア毎にゾーニングして自学自習の場を創出した。
- ・研究個室及びカウンター席を増設し、学習に集中できる場所を多く確保した。
- ・集中して議論できる個室（ラーニングポッド）や、オープンスペースの一角（ディスカバリスクエア）をディスカッションできる場所として開放。コミュニケーションの場も多く設けた。

計画・設計上のポイント

○にぎわいのあるスペース

- ・エントランスやラーニング・コモンズのあるフロアを「にぎわいのあるスペース」と位置づけ、ガラスでゆるやかに仕切ったオープンなディスカッションスペースを設置し、見える、聞こえる場所で活発なディスカッションが行われることで互いに刺激を与え合う空間を創出した。
- ・各種イベントやセミナーにも活用できるよう工夫した。

○静かなスペース

- ・上階のフロアには学習・研究に集中できる個室を整備。2階、3階、4階と上階にいくほど「静かなスペース」として位置づけ、階ごとの明快なゾーニングで利用者にも分かりやすい構成とした。
- ・3階にはグループ学習等ができる個室を設置し、ガラスを用いて議論の様子が窺えるものとした。

Before

にぎわいのあるスペース



静かなスペース



After



グループラーニングエリア



ディスカバリスクエア



ラーニングポッド



自学自習スペース



Before

ラーニング・commons



After



以前は机が並べられていただけの空間が、改修後はPC利用、個人のノートPC用を持ち込み、PCを利用しながら資料も広げられる環境を整備し、また、グループ学習ができるスペースも設け、アクティブラーニングを促す環境形成の強化が図られた。

貴重書室



附属図書館についての外部評価では貴重書の保存状況が適切ではないと指摘を受けており、貴重書の適切な管理・保存が喫緊の課題となっていた。この改修により、中央図書館にある貴重書が適正に管理され、大学のみならずこの地域においても貴重な学術情報資源の長期的な保存が可能となった。

ビブリオサロン



展示イベント
開催時

利用率の低かった4階展示室を2階入口横に「ビブリオサロン」として移転し、来館者の知的交流の場として、また地域貢献の場として活用されており、展示イベント開催時には多くの地域住民が来館している。また、授業・研修にも利用できるなど、空間に可変性を持たせた。実際に職員研修のワークショップの場として利用され、活発な意見が飛び交うなど、限られたスペースを有効に活用する計画としている。



職員研修の開催場所として活用

施設整備の効果

○居心地のよい学習空間

- ・窓際スペースにカウンター席や研究個室を増設し、グリーンベルトの緑豊かな景観を取り込み、開放的で快適な学習空間を創出したことにより、図書館の滞在時間が長くなり、利用率が向上した。

(改修後の効果)

研究個室使用人数：改修前（H24） 9,715人

改修後（H26） 13,740人

ラーニングポット（グループ研究室）：改修前（H24） 1,395件、 9,559人

改修後（H26） 1,940件、 15,407人



カウンター席

- ・議論を促す「にぎわいのあるスペース」と、学習・研究に集中できる「静かなスペース」を明快にゾーニングしたことで、「にぎわいのあるスペース」では活発な議論が促され、大学機能の活性化につながっている。また、留学生スタッフのサポートによる様々なイベントが開催されており、にぎやかな空間でゲームなどを行いながら英語を学ぶことができ、日本人学生のさらなる英語力向上につながっていると同時に、留学生との交流も促され、グローバル人材の育成につながっている。「静かなスペース」では学習や研究に集中することができ、学生の自学自習をサポートする空間が形成された。

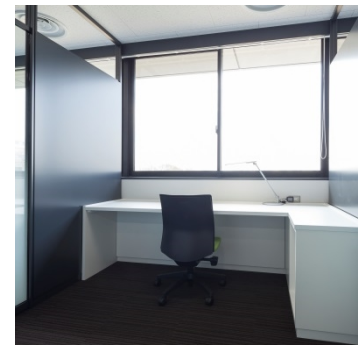
(改修後の効果)

ディスカバリアの利用率向上：改修前（H24） 47件、 715人

改修後（H26） 361件、 7,124人

イベント件数の向上：改修前（H24） 2件

改修後（H26） 9件



「静かなスペース」：研究個室

○安心・安全な学習環境

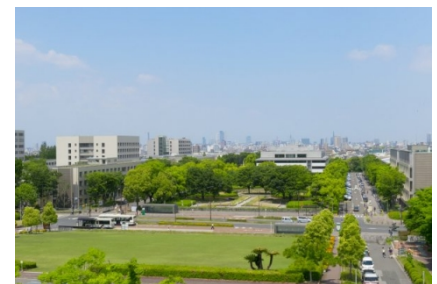
- ・耐震改修を行ったことにより、学生への安心・安全な学習・研究空間の提供が図られたとともに、これまで収集してきた海外や国内の貴重な資料が安全に保管され、将来に渡り優れた学術情報を引き継いでいくことが可能となる。



「にぎわいのあるスペース」：ディスカバリアスクエア

○周辺施設群と調和する景観

- ・これまではレンガ色だった外壁を無彩色とすることで、グリーンベルトを取り囲む豊田講堂や周辺施設群と調和する、一体的な景観形成を図った。



グリーンベルトを取り囲む
図書館（写真中央）と周辺施設群

○人の流れを生み出す計画

- ・学生の自学自習だけではなく、ゼミや授業、研修等にも利用できるスペースを設けたことで、東山キャンパスの中心に位置する図書館への人の流れがさらに生み出され、屋外空間や周辺施設群を含めた活性化につながっている。